

鴨川を中心としたまちづくりの取組について
鴨川左岸（三条～四条）における夜間景観づくり

第67回鴨川府民会議 令和7年3月12日
京都市都市計画局都市景観部景観政策課

1

・取組の位置付け

鴨川は線形が直線的で見通しが良く、隣接する特徴的な建築群と一体として京都を象徴する景観的特性を有し、京都の心象風景として思い浮かべる人も多い場所です。特に三条～四条間は中心市街地に位置し、京都随一の繁華街である先斗町や祇園・白川エリアとも隣接することから、多くの人々に愛され利用されています。

一方で、当該エリアにおける現在の夜間の使われ方は、京都ならではの価値観・品位に対する理解、節度あるものとは言えない状況も散見されることから、夜間の使われ方に着目しながら景観づくりに取り組む意義は大きいと言えます。

市民・来訪者に対し、楽しみや心地よさを与え、更に周辺一帯が魅力的なエリアとなるよう、京都固有の価値観や品位に即した作法を自然と促し意識させる空間づくりに、より磨きをかけていくことが重要です。

そこで、この度の夜間景観づくりを「節度ある使い方を促し、エリア価値を高める環境装置とする取組」と捉え、その創出を最終的な目的とし、そのきっかけをつかむための実験を実施しました。

取組の位置付け

鴨川の魅力向上に向けたまちづくり

安心・安全な河川空間づくりと一体となった**鴨川の魅力向上に向けたまちづくり**を進めるため、様々な取組が継続的に実施されています。

夜間景観づくり

市民や事業者の皆様との協働による**魅力的な夜の景観づくり**により、新たな価値の創造、地域の活性化や生活の豊かさの向上を目指してきた。



2. 実験の位置付けと目的

(1) 社会実験の位置づけ

左岸（三条～四条）の動線強化及び周辺エリアのまちづくりの機運醸成

(2) 実験における考え方

「京都のあかり 京都らしい夜間景観づくりのための指針」に示された『京都らしいあかり』を象徴する4つのキーワードや『快適なあかり』の7つの原則に基づき、魅せたい場所や空間を選定し、闇の中に程よいあかりを配置します。京都らしい夜間景観として「陰翳礼讃」の考え方を大切にし、陰翳とやわらかなあかりを基調としながら、鴨川単体ではなく、京都という都市の一部を形成するエリアとして、当該地に必要なあかりのあり方を検討します。

具体的には、場所の特徴に応じて「シーナリー（静止した視点場からの景観形成）」と「シークエンス（移動する視点場からの景観形成）」を意識し、特に川端通の西側歩道及び東側歩道においては、シークエンスとしての夜間照明による景観づくりを目指すことで、南北方向の動線強化を図ります。

なお、デザインについては、事前に優良デザイン促進制度を活用し、景観アドバイザーに意見を求めて決定した。

京都らしいあかり



1. 歩いて楽しむ心地よいあかり

京都の夜景は高い所から俯瞰するというよりは、歩いて楽しむものかもしれません。歩きながら、さまざまな地域や気づきと出会うことができます。

雰囲気や気配で感じる夜の景色、歩く人にとって心地よいヒューマンスケールのあかりです。

2. やわらかな暖かいあかり

光の色味が夜の景観の第一印象を決めるといっても過言ではありません。歴史的なまち並みには、白々としたきつい照明ではなく、京町家の格子から漏れるような、柔らかく暖かみのあるあかりが似合います。

3. 地域ごとの特性に合わせたあかり

京都のまちは、地域ごとの異なる歴史や文化、特性をもった個性的なまちが重なり合って出来ています。それぞれの個性を活かす演出によって一層魅力的な夜の景観となり、にぎわいや落ち着きなど場所ごとの適切な過ごし方（＝アクティビティ）を創出します。

4. 陰影礼賛 暗がりも大切に

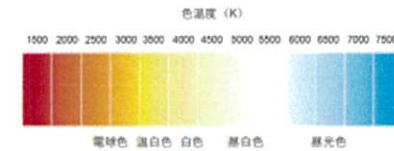
何もかも明るく照らすことがよいというわけではありません。京都に残るほの暗さや陰影のなかに見いだされる魅力を損なわないつつましさを大切に、不快なまぶしさを生み出さない配慮が必要です。

快適なあかり ―夜間景観を向上させる7つの原則―

1. グレア（不快なまぶしさ）の抑制
2. 適切な色温度
3. 演色性の配慮
4. 快適な陰影のバランス
5. 鉛直面の明るさ
6. オペレーション
7. 環境に配慮した照明



グレアがひどい場所では光源ばかりが目立ち景色が損なわれる。



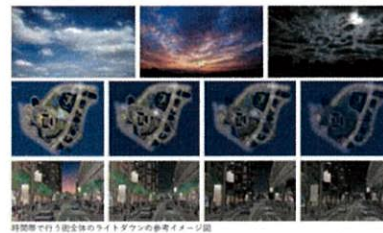
演色性が高い光源が使われている空間では各素材が鮮やかに見え、色彩の違いがはっきりとわかる。



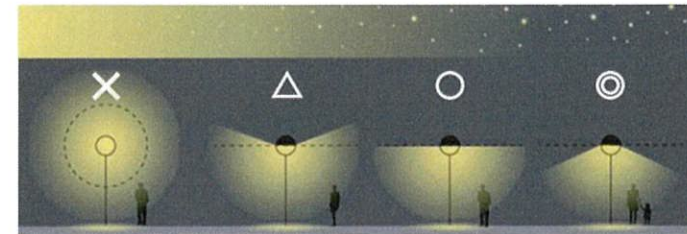
一般的な道路を均一に照らすような照明がなくても、道路脇に並ぶ行灯が足元を照らしており、誘導効果をもたらす。



竹林を知らして明るく奥行きを感じる通りを演出している。

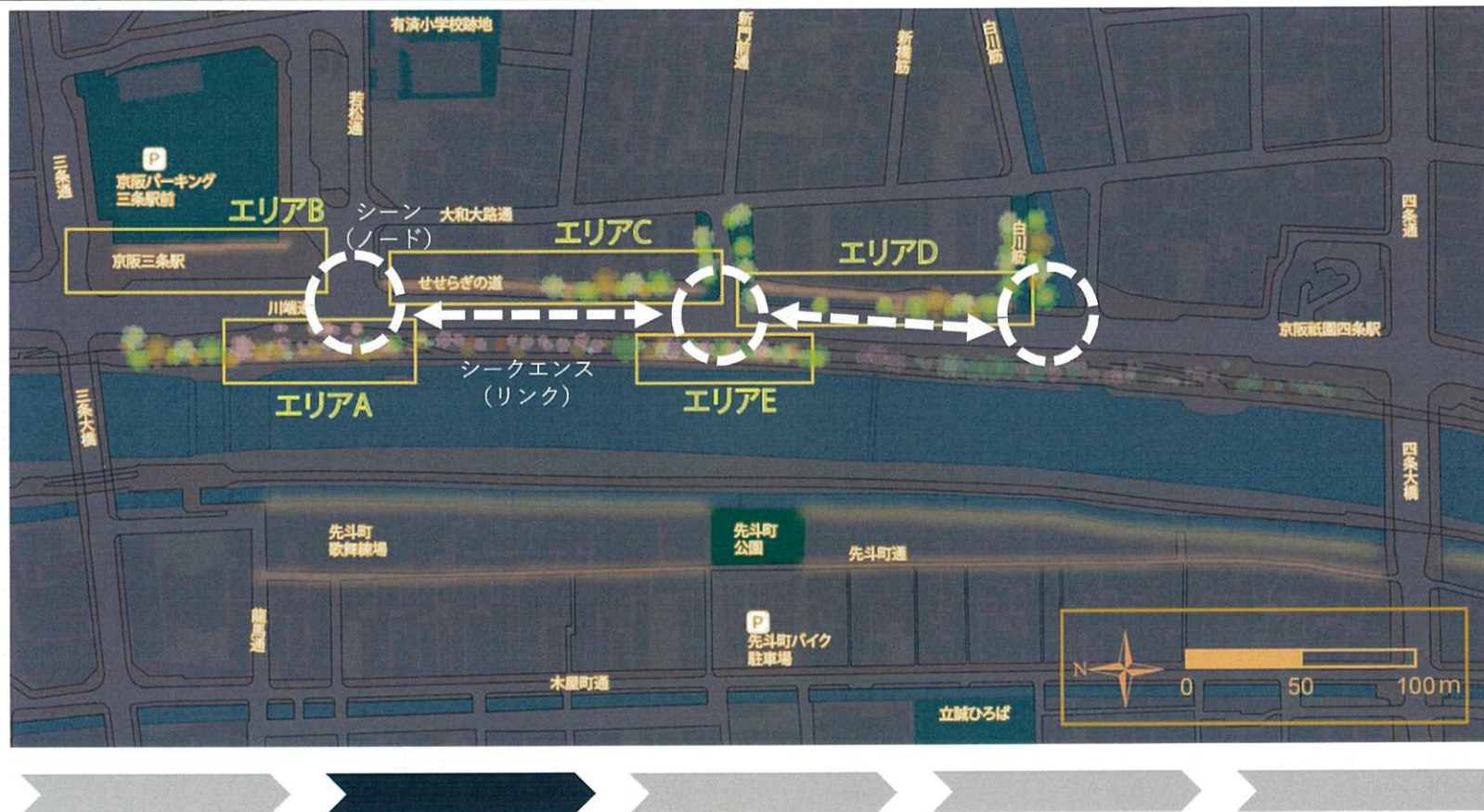


路開等で行う歩道のライトダウンの参考イメージ図



シーナリーとシークエンスの関係性

鴨川左岸（三条～四条）川端通周辺を対象に実施



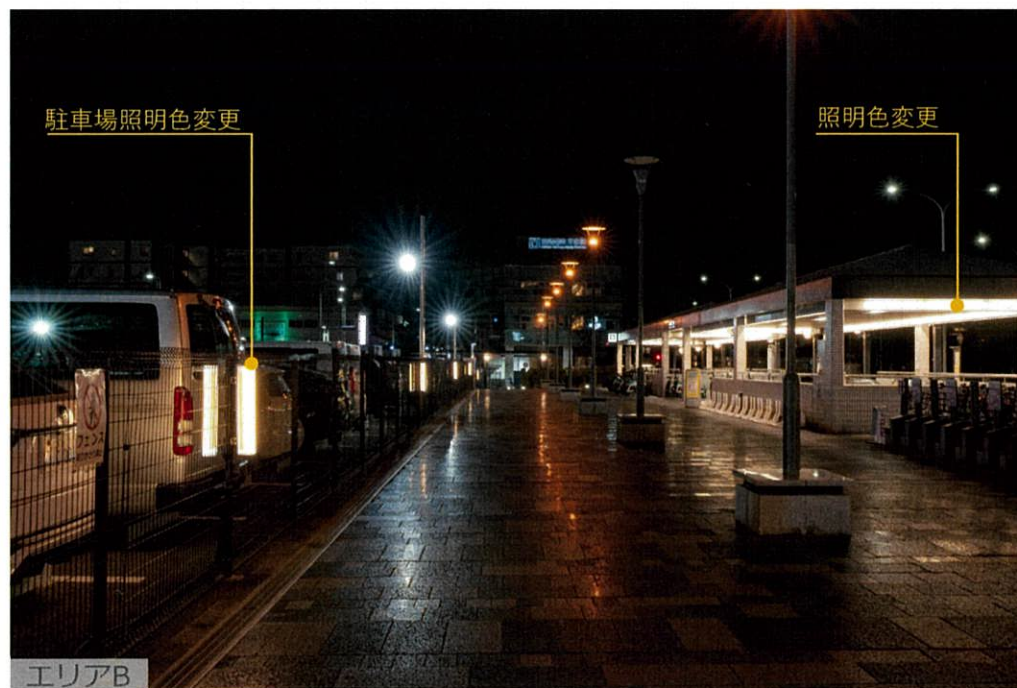
3・実験状況

- (1) 開催日時
令和7年1月27日(月)～2月17日(月)
午後6時～午後11時
- (2) 場所
川端通(三条～四条)歩道周辺
- (3) 内容
照明設備の設置による夜間景観づくりと、それによる当該エリアにおける通行動線の変化など通行量の関係性について調査を行った。

エリアA（西側三条通～若松通



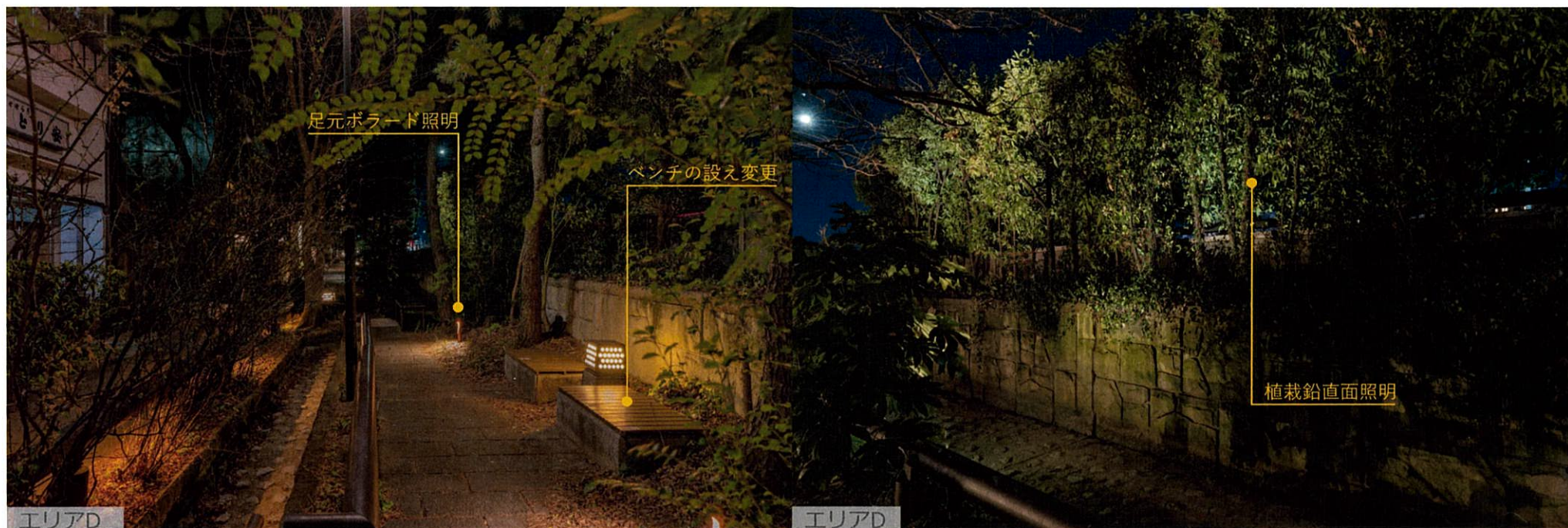
エリアB（京阪出入口付近）



エリアC（せせらぎの道 若松通～新門前通）



エリアD（せせらぎの道 新門前通～白川筋）



エリアE（新門前通交差点）



4・実験結果

- (1) アンケート調査
 - ・照明環境の変化と行動変容の関係について調査するための印象調査
 - ・証明デザインが、コンセプトや方針にどの程度合致しているとみなされるか印象調査を行う。
- (2) 通行量調査（集計中）
 - ・実験期間中及び期間外の通行量調査を行い、通行量への影響を観測する。
- (3) その他
 - ・現地保安管理を兼ね、機材状況、鳥類の動向を観測する

アンケート調査の概要

項目	内容
対象	来訪者
調査方法	Googleフォーム ・ 現地に掲示したポスターにアンケートフォームの二次元コードを配置 ・ 周辺関係者等へ配布したチラシにアンケートフォームの二次元コードを配置
調査期間	令和7年1月27日～令和7年2月17日（22日間）
回答数	56件
質問構成	・ 普段の川端通（三条～四条）歩道周辺の利用について ・ 本日の川端通（三条～四条）歩道周辺「夜間景観づくりの実証実験」について ・ 鴨川周辺における夜間景観づくりについて ・ 回答者属性



アンケート調査の結果（速報値）

回答者属性

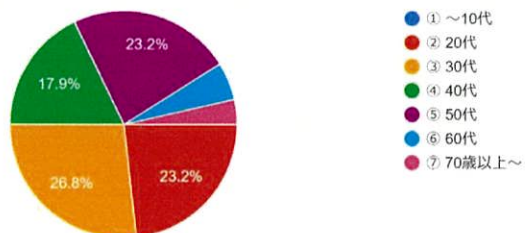
Q9-3「ひとり」で訪れた人が最も多く6割を超え、次いで「友人・知人と」が2割であった。

Q9-4「京都市内」に居住する人の回答が6割を占めた。

Q9-4 社会実験実施箇所に近い居住地（鴨川（三条～四条）周辺）の方の回答が12.5%（7件）であった。「中京区・下京区・東山区」が居住地の方を含めると33.9%であった。

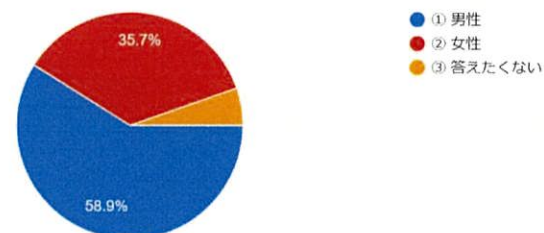
Q9-1：あなたの年代を教えてください

56 件の回答



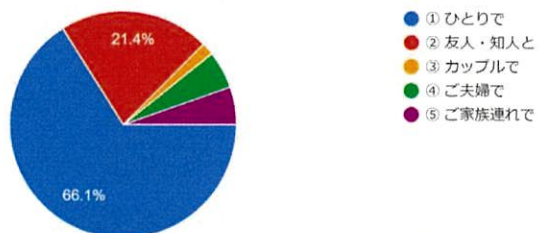
Q9-2：あなたの性別を教えてください

56 件の回答



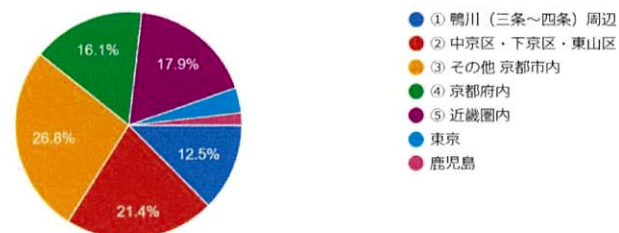
Q9-3：誰と来たか教えてください

56 件の回答



Q9-4：居住地を教えてください

56 件の回答

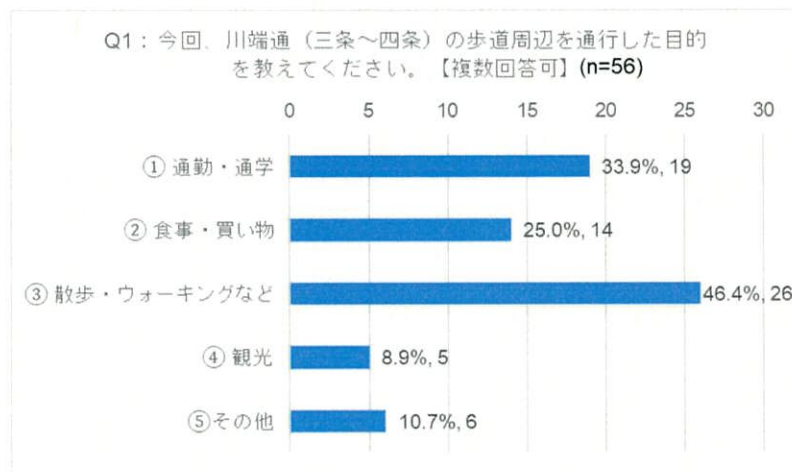


アンケート調査の結果（速報値）

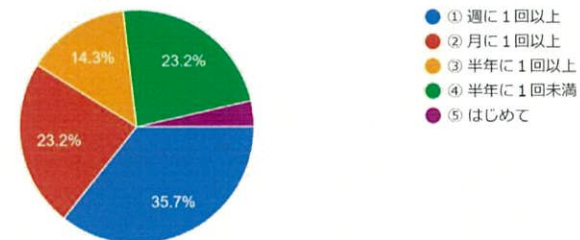
回答者属性

Q1 通行の目的は、日常的な利用（①～③）が9割を占めた。

Q2 回答者は日常的に（①週に1回以上）社会実験対象地を通行する人が最も多く、35.7%（20件）であった。月に1度以上を含めると58.9%となる。



Q2：川端通（三條～四條）歩道周辺の通行頻度を教えてください。【1つだけ選択】
56件の回答

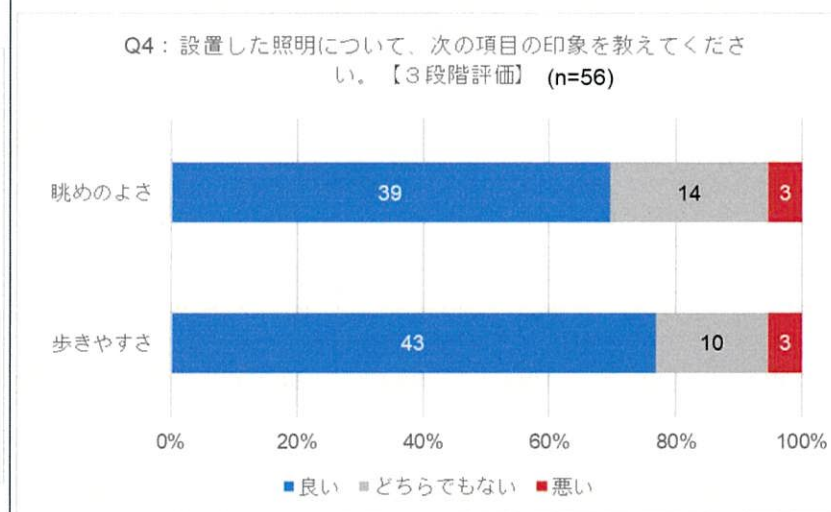
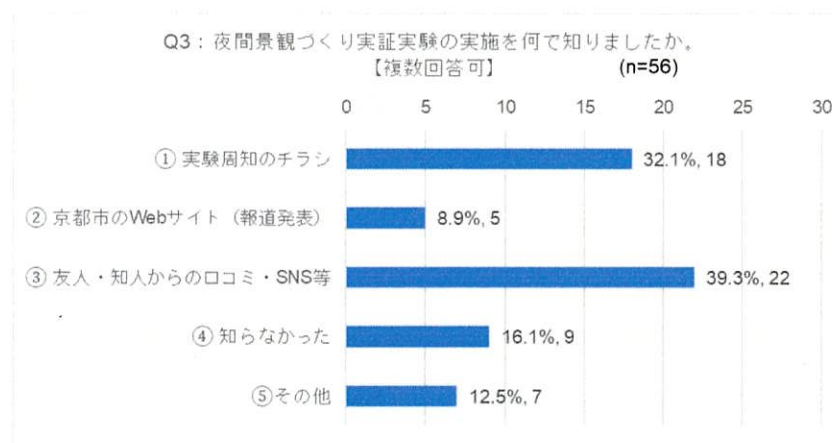


実験地周辺に居住する方以外でも利用頻度が高い方々がおられ、総じて現状をよくご存じの方々からの回答が半数程度あったことがわかる。

アンケート調査の結果（速報値）

印象評価 (行動影響)

Q4 照明により、「歩きやすい」は76.7%、「眺めのよい」は69.6%と好印象が多い結果となった。一方で、悪いと評価された方もおられた。



アンケート調査の結果（速報値）

印象評価

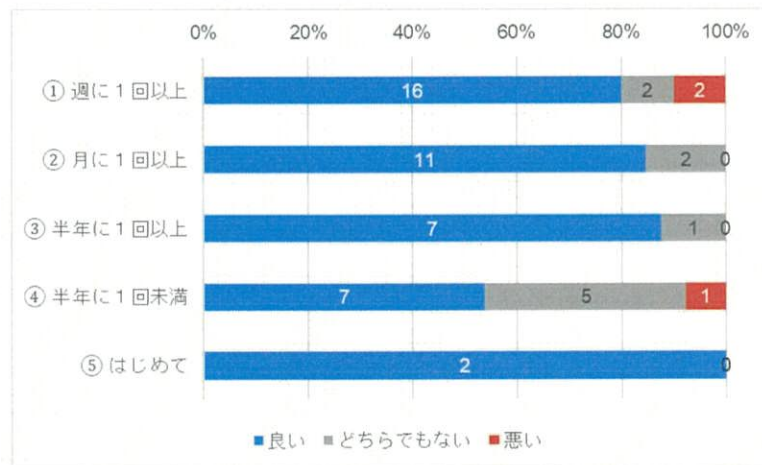
（行動影響）

- ・「歩きやすさ」は、通行頻度「半年に1回以上」以上の人で「良い」が80%以上を占めた。（左表）
- ・「眺めのよさ」は、通行頻度の高い人の方が評価の高い傾向があり、「週に1回以上」の人は「良い」が80%以上を占めた。（右表）
- ・各項目で「悪い」と評された方は利用頻度が高い人と低い人それぞれに存在した。

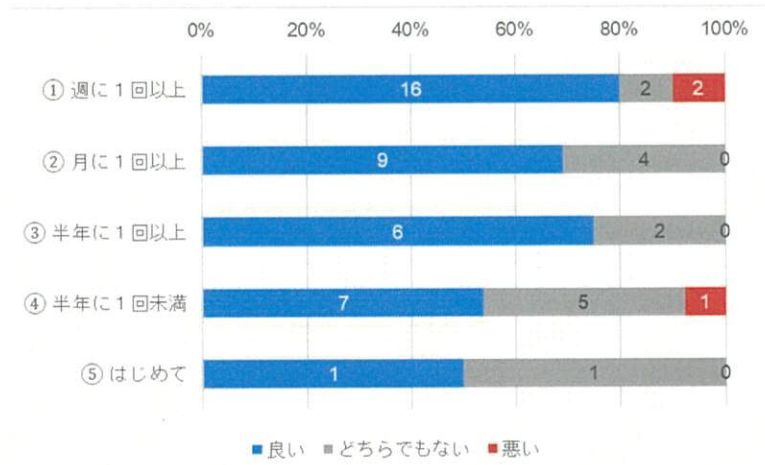
【クロス集計結果】

Q2：川端通（三条～四条）歩道周辺の通行頻度 × Q4：社会実験の印象

「歩きやすさ」について



「眺めのよさ」について



2 評価軸いずれも、利用頻度の高い方々の印象は良い傾向にあった。



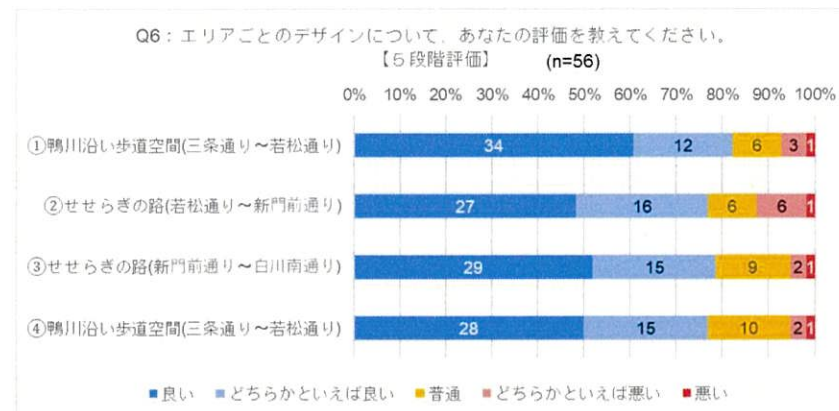
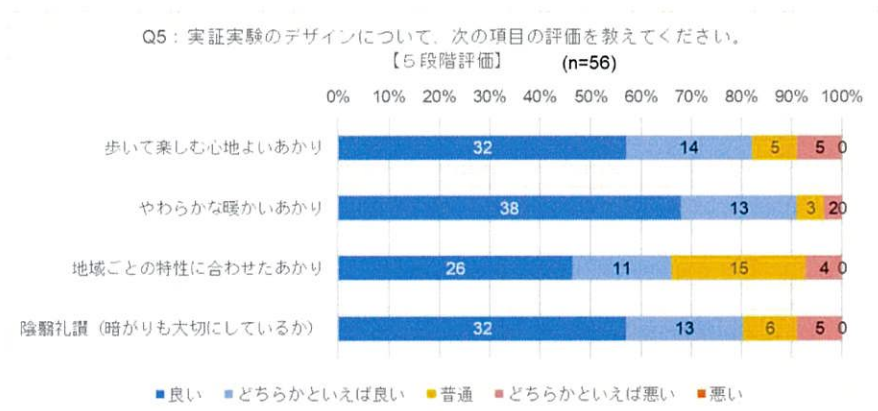
アンケート調査の結果（速報値）

印象評価

（コンセプト）

Q5 「京都のあかり」に基づく観点の内、3項目で「良い」「どちらかといえば良い」との評価が80%以上であった。一方、「地域ごとの特性に応じたあかり」は66%であった。

Q6 各エリアのデザインについて、「良い」「どちらかといえば良い」との評価はいずれも80%程度であった。



全体的なイメージは、おおよそコンセプトに沿ったデザインと評価されたと考えられる。



アンケート調査の結果（速報値）

印象評価

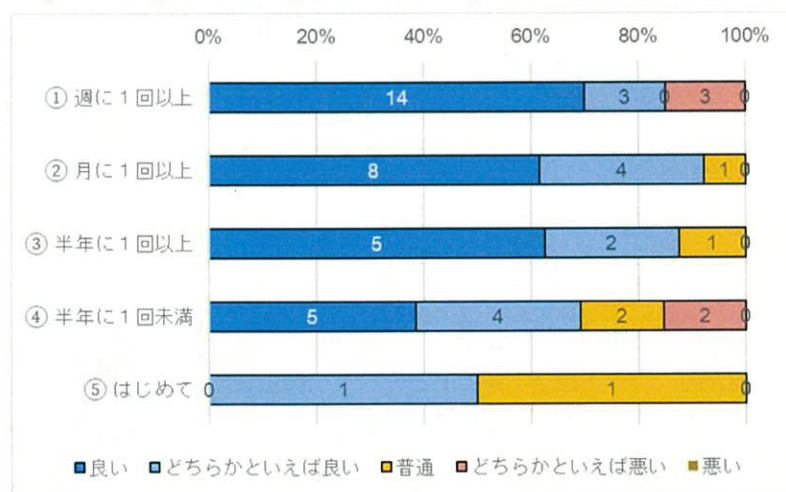
（コンセプト）

- ・「歩いて楽しむ心地よいあかり」は、半年に1回以上の利用者から「良い」「どちらかといえば良い」が80%を超えたが、それ以下の頻度の利用者の評価は80%を下回った。（左表）
- ・「やわらかな暖かいあかり」は、いずれの利用頻度であっても好評が大半であった。（右表）

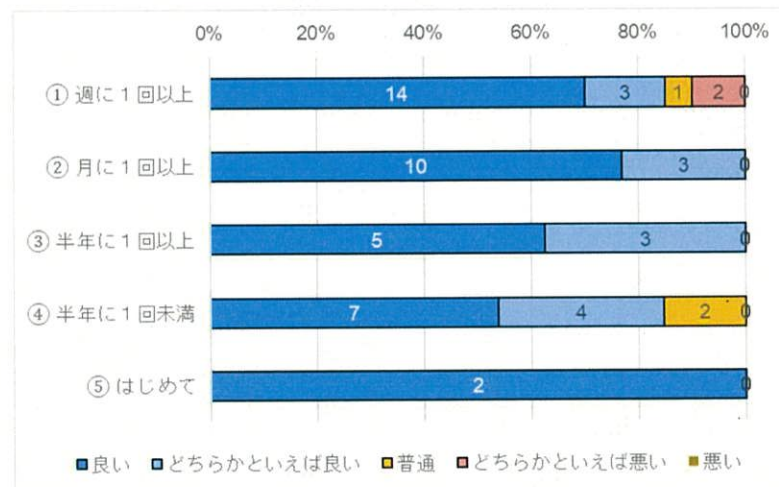
【クロス集計結果】

Q2：川端通（三条～四条）歩道周辺の通行頻度 × Q5：デザインの評価

「歩いて楽しむ心地よいあかり」について



「やわらかな暖かいあかり」について



アンケート調査の結果（速報値）

印象評価

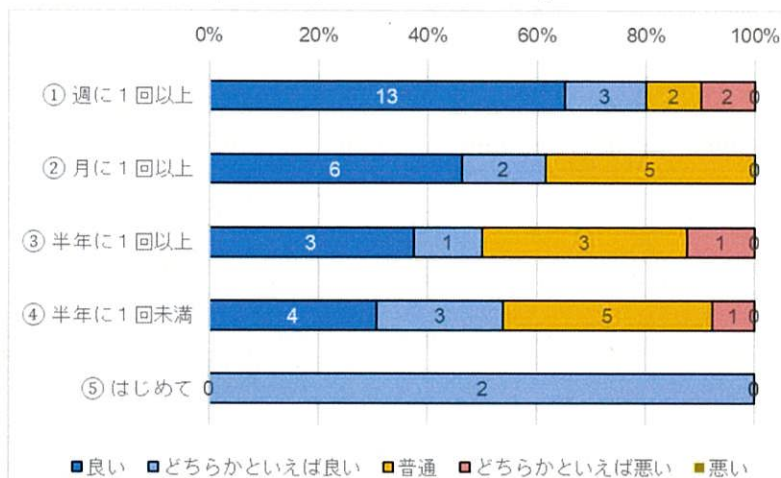
（コンセプト）

- 「地域ごとの特性に合わせたあかり」は、通行頻度の高さに比例して評価が高い傾向があった。週1以上の利用者の80%からは好評であった。（左図）
- 「陰翳礼讃（暗がりも大切にしているか）」は、半年に1回以上の利用者から「良い」「どちらかといえば良い」が75%を超えた。

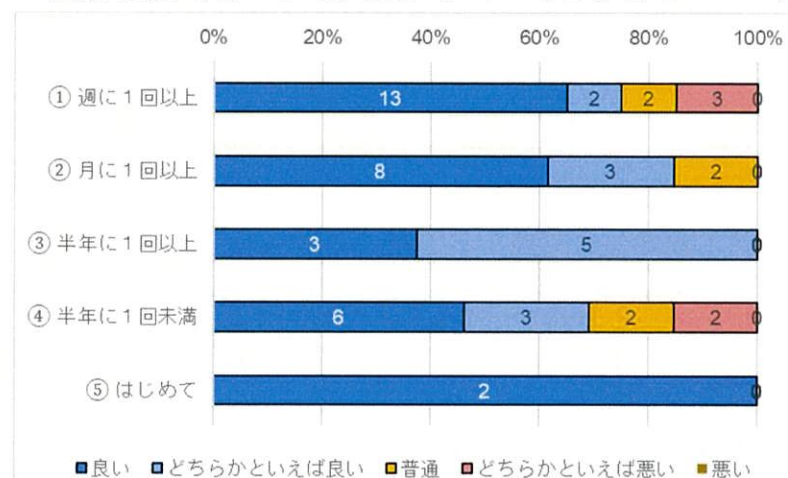
【クロス集計結果】

Q2：川端通（三条～四条）歩道周辺の通行頻度 × Q5：デザインの評価

「地域ごとの特性に合わせたあかり」について



「陰翳礼讃（暗がりも大切にしているか）」について



通行頻度が高い方々からは、総じて高評価を得ていることがわかった。

「地域ごとの特性に応じた明かり」の項目は、利用頻度による評価の差が大きいことから、地域特性の解釈に違いがあるものと推察される。



通行量その他の調査

通行量調査

結果集計中

その他の調査

- ・ 実験前に周辺樹木を対象に鳥の利用状況を調査したところ、若松通・川端通の交差点（右図 地点a）の松周辺に鳥糞が確認された。
- ・ しかし、18時～23時（点灯時間）には周辺樹木に鳥類の姿は確認できず、実験期間中も同時時間帯には確認されなかった。
- ・ 一方、実験期間中でも、周辺樹木数日おきに鳥糞が確認され、期間前の状況と変化は見られなかった。

照明設置に関して鳥類の動向への影響は確認されなかった。



